

資料

1958年1~3月の米国国際収支と

各国の金ドル準備

1. 概 況

世界貿易の縮小傾向が伝えられ、国際流動性問題が論議の焦点となりつつある折から、最近米国商務省の発表した1958年第1四半期（1~3月）の同国国際収支には昨秋来の米国の支払超過一ドル流出の拡大とともに、世界貿易縮小の気配がうかがわれ注目されている。

いまその主な特徴を列挙すれば、まず第1四半期の収支の規模は季節調整を加えた場合、受取において前期比-11%、前年同期比-18%であり、支払において同じく-2%、-4%であつて、いずれも昨年第2四半期をピークに縮小の傾向を続けている。

次に受取の減少は支払のそれに比しとくに著しいものがあつた。これは輸出の大幅減退に基くもので、諸外国の外貨準備悪化と景況変化による対米輸入需要の低下をも反映している。

一方支払の減少は米国内における景気後退の深化にもかかわらず比較的軽度にとどまつた。しかし商品輸入がようやく減少に転じ、季節調整済計数では56~57年の水準を下回つたことは、米国景気の先行きと関連して注目される。

収支尻は結局5.5億ドルの支払超過となつた（季節調整済計数では7億ドル）。これを昨年第4四半期のそれと合せた場合、この半年間の支払超過は6.6億ドルとなり、それに先立つ1年間の受取超過9.4億ドルのほぼ70%が相殺されたこととなる。これはスエズ動乱以来の「ドル不足」緩和に好ましい影響をもたらし、この結果諸外国および国際機関の金ドル保有額は本年3月末333億ドルとなつて56年9月末の水準をこえるに至つた。

2. 商品輸出

第1四半期の商品輸出は40.5億ドルであつた。これを季節調整済計数でみた場合、前期比-11%、前年同期のピーク比-21%であつて、ほぼ56年第

1四半期の水準に戻つたこととなる。輸出の減退は昨年第4四半期すでにならぬ額に達していたが、これが本年に入つてさらに増大したものである。

1956年初以来現在までの米国商品輸出にみられた大きな波動は、周知の通り幾つかの短期的な特殊要因、たとえばスエズ危機、欧州農業の凶作、米国余剰綿花処理などを理由の一半とするものであつた。加えてこの時期における世界的な投資ブームとその沈静、諸外国における外貨危機の発生と引締政策の実施もこれに影響を及ぼしている。したがつてこれら諸要因の消滅が米国の商品輸出水準を旧に復せしめたものであると言えるであろう。この間の推移を商品別に概括すれば次表の通りである。

商品輸出の変動(1956~58年) (単位・億ドル)

区 分	1956年第 1 四半期	ピ ーク	1958年第 1 四半期
総 額	39.1	57年2/4 50.9	40.5
食 料	5.7	56年4/4 7.2	5.4
原 料	4.2	" 9.0	5.4
半 製 品	6.4	57年1/4 9.5	5.5
完 成 品	22.8	57年2/4 27.5	24.2

資料：米国商務省、サーベイ・オブ・カレント・ビジネスより作成。

また主要商品についてこれをみれば、この間綿花は0.5億ドルより57年初の3.7億ドルに達したのち現在2.2億ドルへ、鉄鋼は2.5億ドルより57年央の3.9億ドルを経て現在2億ドルへ、また石油は1.5億ドルより57年初の3.7億ドルのあと現在1.3億ドルへとそれぞれ激しい変動を示している。

本年第1四半期の輸出は商品分類別にみてすべて前期比減少を記録した。原料および半製品の輸出減退は前期比それぞれ30%および20%と大幅で注目されているが、これと並んで完成品部門にもまたようやく輸出減退傾向が見えはじめるに至つた。第1四半期の完成品輸出は前期比約10%の減少を示したばかりでなく、久々に前年同期の水準をも下回る(-4%)こととなつた。

このような動きの主要な背景としては、原料・半製品部門については西欧、日本などの外貨事情による引締政策と経済活動の停滞に伴う需要の減退とが、また完成品部門についてはカナダの景気後退と後進国の外貨収入減少に基く資本財輸出の頭打ちとがそれぞれ指摘されている。すなわち、先進工業国における景気後退、後進諸国における経済困難の影響が米国の商品輸出面に反映するに至つたわけである。とくに対日輸出は前年同期比-39%、56年同期比+38%であり、西歐向け輸出は前年同期比-31%でほぼ56年同期と同水準にある。

3. 商品輸入

商品輸入は第1四半期31.8億ドルで前期比2.1億ドルの減少を示した。季節調整済計数でみた場合、56~57年の輸入の動きは輸出のそれとは全く対照的で、基調としては漸増の方向を続けていたのであるから、今回初めて前期比-10%、前年同期比-4%の減少を示したことは、それが主としてコーヒーの値下り見越による輸入手控えによるものであるにしても一応注目しなければならぬ。

商品別計数は3月分が未発表であるが、コーヒーの在庫削減による輸入減少が80百万ドルにのぼつた模様であり、この他では羊毛、鉄鋼、パルプなどの輸入減が目立っているといわれる。銅、鉛、亜鉛、鉄鉱石などの輸入は比較的高水準で、これら商品の国内生産の削減と在庫増加をもたらす一因として作用した。完成品輸入は景気後退下にあつてもさしたる影響を受けず1~2月の自動車輸入は前年同期の2倍以上となつたとみられている。

地域別計数もまた未集計であるが、1~2月の動きからみて中米よりの輸入が増勢をみせているほかは概して横バイ傾向にあり、とくにカナダ、南米よりの輸入はかなり減退しているものと推定される。

4. 商品輸出入およびその他の支払

以上の結果第1四半期の商品輸出入戻は8.7億ドルの出超を記録したが、前年同期(18.0億ドル)および前期(12.6億ドル)の出超額に比較すると

大幅の減少を示しており、これが第1四半期における国際収支悪化の主因をなすとともに、米国民気後退を深める一因となつていることも見のがせない。

次に、政府支出は贈与、貸付および海外軍事支出を合せた場合、第1四半期14.3億ドルとほぼ前期および前年同期に近い水準を続けている。

民間対外投資は景気後退時においては主として外国証券購入という形で増加する傾向をもつものであるが、これは第1四半期においても明確に認められ、新規購入2.9億ドル、償還0.2億ドルとこの種の資本流出における戦後最高を記録した。投資対象は主として世界銀行債およびカナダ地方債で、他にオランダ、南阿などの起債が行われたが、この傾向は第2四半期にも続いている。

これに対して対外直接投資は同期中2.2億ドル(前期3.4億ドル、57年第2四半期9.9億ドル)と激減した。この減少は石油・鉱山業部門のカナダ、中南米向け投資に関するものであり、主として既計画分の完了と世界的な石油・鉱山関係の市況低迷を反映したものであつて、これら諸国に対する米国商品輸出減退の一因をなしている。

5. 各国金ドル準備

米国を除く諸外国および国際機関の金ドル準備は、以上のような米国国際収支の逆調を主因として前期に引続き増大し、3月末現在333億ドル(1~3月増6.2億ドル)をこえた。

同期中最大の増加を示したのは英国で6.3億ドル増と著しく、これに続いてオランダ(+2.2億ドル)、日本(+1.2億ドル)、ベルギー(+0.7億ドル)など昨年多かれ少なかれ金ドル準備の悪化に悩んだ諸国に改善が認められた。他方西ドイツ(-1.3億ドル)、ベネズエラ(-1.3億ドル)など昨年巨額の金ドル準備増加を記録した諸国の減少が見受けられる。後進諸国にあつては同期中にも金ドルを喪失したものが多く、うちインドネシアの0.6億ドル減が目立つた。このほかフランスでは同期中国際通貨基金より65百万ドルの援助を仰ぎながらもなお金ドル準備52百万ドル減と悪化が続いている。

さらに第1四半期において各国金ドル準備に金

の比重がかなり増加しており注目される。いま諸外国（国際機関を除く）の保有金および短期ドル資産についてその推移をみれば次の通りである。

諸外国保有金・短期ドル資産 (単位・億ドル)

	1957年末	1958年3月末	増加
金	147.7	152.5	4.8
短期ドル	136.2	137.7	1.5
計	283.9	290.2	6.3

資料：米国連邦準備制度理事会月報より作成。

諸外国金ドル資産は同期中6億ドル余の増加となつたが、内訳においてはドル資産の増加1.5億ドルに対し金の増加は5億ドルに近い。このような金比重の大幅増加は、主として英国が最近における対外収支の好調を利用して同国の金ドル準備における金の比重を高めようと努めていることによ

米国国際収支(1957~58年)

(単位・百万ドル)

区 分	1957年	1/4	2/4	3/4	4/4	1958年 1/4(1)
商品輸出(2)	19,327	5,096	5,143	4,447	4,641	4,052
サービス受取	7,149	1,602	1,801	1,805	1,941	1,540
小 計	26,476	6,698	6,944	6,252	6,582	5,592
商品輸入	13,291	3,298	3,342	3,266	3,385	3,176
サービス支払(3)	4,990	1,050	1,244	1,512	1,184	1,038
小 計	18,281	4,344	4,586	4,778	4,569	4,214
民間対外投資	3,211	840	1,363	410	598	715
政府贈与(2)	1,613	391	492	334	396	379
政府貸付	963	255	194	141	373	223
海外軍事支出	3,120	849	876	693	702	826
小 計	5,696	1,495	1,562	1,168	1,471	1,428
外国長期資本流入	361	166	127	18	50	37
外国金ドル保有増減(Δ)	Δ 525	Δ 543	178	Δ 274	114	546
記録外受取	876	362	262	360	Δ 108	182
受取総額	27,713	7,226	7,333	6,630	6,524	5,811
支払総額	27,188	6,683	7,511	6,356	6,638	6,357

注 (1)暫定。(2)軍事援助分を除く。(3)海外軍事支出を除き、民間送金および政府関係年金などの送金を含む。

資料：米国商務省、サーベイ・オブ・カレント・ビジネス。

るものとみられている。同国の金ドル準備中の金比重は近年85~95%程度であつたが、昨年末にはこれが70%見当にまで低下していた模様である。

このような動きと表裏して米国保有金の対外流出は1~3月3.7億ドルに達した。流出の大半は英国向け(3億ドル)でオランダ、ベルギーなどがこれに続いている。米国の対外金流出はその後第2四半期に入つても継続しており、同財務省保有金は4~6月間にさらに11億ドル近く減少している。

諸外国金ドル準備(1956~58年)

(単位・百万ドル)

区 分	1956年末	1957年末	1958年※ 3月末
大陸西欧諸国	14,433	15,071	15,204
フランス	1,512	955	903
西ドイツ	3,343	4,113	3,983
イタリア	1,270	1,533	1,525
ベルギー・ルクセンブルグ	1,239	1,190	1,258
オランダ	1,080	1,058	1,274
スイス	2,643	2,810	2,755
スターリング地域	4,157	4,243	4,838
英国	3,015	3,080	3,706
インド	324	330	327
カナダ	2,996	3,195	3,158
ラテン・アメリカ	4,303	4,532	4,406
ベネズエラ	1,061	1,556	1,430
ブラジル	550	457	441
アジア諸国	2,812	2,334	2,391
日本	1,149	710	829
タイ	261	270	270
インドネシア	231	190	128
フィリピン	300	186	201
その他諸国	375	397	393
国際機関	3,535	2,920	2,919
総 計	32,611	32,692	33,309

(注) ※暫定。

資料：米国連邦準備制度理事会月報。